

がん予防キャンペーン大阪 2006

シンポジウム

がんの最新治療 ～早くみつけて上手に治す～

日時

平成 18 年 11 月 25 日 (土)
午後 1 時 30 分 ~ 4 時

会場

大阪府医師会館大ホール

主催

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会

< プ ロ グ ラ ム >

13:30 開 会

【実行委員長挨拶】

(社)大阪府医師会長

酒井 國男

【大阪府知事メッセージ】

代読 大阪府健康福祉部地域保健福祉室

副理事兼健康づくり感染症課長

松下 彰宏

13:40 シンポジウム 「がんの最新治療～早く見つけて上手に治す～」

【 司 会 】

大阪大学医学部消化器外科学教授

門田 守人

(財)大阪がん予防検診センター所長

黒田 知純

【シンポジスト】

肺がん治療について

大阪府立成人病センター外科系診療局長

児玉 憲

乳がん治療について

大阪大学医学部乳腺内分泌外科学教授

野口 眞三郎

消化管がん治療について

大阪大学医学部消化器外科学助教授

関本 貢嗣

肝がん治療について

近畿大学医学部消化器内科学教授

工藤 正俊

15:00 休 憩 (15分)

15:15 総 合 討 論

16:00 閉 会

< シンポジウム >

テーマ：がんの最新治療～早く見つけて上手に治す～

【 司 会 】

大阪大学医学部消化器外科学教授
(財)大阪がん予防検診センター所長

門田 守人
黒田 知純

【シンポジスト】

肺がん治療について	大阪府立成人病センター外科系診療局長	児玉 憲
乳がん治療について	大阪大学医学部乳腺内分泌外科学教授	野口 眞三郎
消化管がん治療について	大阪大学医学部消化器外科学助教授	関本 貢嗣
肝がん治療について	近畿大学医学部消化器内科学教授	工藤 正俊

【司会者のプロフィール】

● 門田 守人 (もんでん もりと)

大阪大学大学院医学系研究科外科学講座消化器外科学教授

1970年大阪大学医学部卒業、大阪大学医学部附属病院医員。

1971年兵庫県立西宮病院外科医員。

1973年大阪大学医学部外科学第二副手、1975年大阪大学医学部附属病院第二外科医員。

1979年大阪大学医学部外科学第二助手。

1979年外国留学 Memorial Sloan-Kettering Cancer Center

(Department of Surgery, Prof. J.G. Fortner)

1984年外国出張 University of Pittsburgh (Department of Surgery, Prof. T.E. Starzl)

1987年大阪大学医学部外科学第二講師、1990年同助教授、1994年同教授。

1999年大阪大学大学院医学系研究科病態制御外科学(現・消化器外科学)教授、現在に至る。

2004年大阪大学医学部附属病院副院長(兼任)

専門：消化器外科学

● 黒田 知純 (くろだ ちかずみ)

(財)大阪がん予防検診センター所長

1965年大阪大学医学部卒。1985年大阪大学医学部附属病院(中央放射線部)助教授を経て、

1990年大阪府立成人病センター放射線診断科部長兼同研究所第9部部长。

1998年同センター副院長、2002年より大阪府健康福祉部理事兼(財)大阪がん予防検診センター所長、2005年(財)大阪がん予防検診センター所長、現在に至る。

専門：放射線診断学

【シンポジストのプロフィール】

- **児玉 憲（こだま けん）**

大阪府立成人病センター外科系診療局長

1972 年和歌山県立医科大学卒。

1975 年和歌山県立医科大学紀北分院外科助手、1979 年和歌山県立医科大学胸部外科助手。

1982 年大阪府立成人病センター呼吸器外科診療主任、1985 年同医長、1997 年同部長、

2003 年同センター外科系診療局長、現在に至る。

専門：胸部外科学

- **野口 眞三郎（のぐち しんざぶろう）**

大阪大学大学院医学系研究科外科系臨床医学専攻外科学講座

（乳腺内分泌外科分野）教授

1980 年大阪大学医学部卒

1980 年大阪成人病センター外科医員

1982 年箕面市立病院外科医員

1983 年大阪大学医学部病理病態学教室医員

1985 年大阪府立成人病センター第 3 外科医員

1998 年大阪大学外科学講座（乳腺内分泌外科分野）教授

専門：乳腺内分泌外科学

- **関本 貢嗣（せきもと みつぐ）**

大阪大学大学院医学系研究科外科学講座消化器外科学助教授

1981 年大阪大学医学部卒

1995 年同第 2 外科助手

1999 年同病態制御外科講師

2004 年同消化器外科助教授

専門：消化器外科学

- **工藤 正俊（くどう まさとし）**

近畿大学医学部消化器内科学教授

1978 年京都大学医学部卒

1980 年神戸市立中央市民病院消化器内科医員、1985 年同副医長。

1987 年カリフォルニア大学留学（デービスメデイカルセンター）

1989 年神戸市立中央市民病院消化器内科副医長、1992 年同医長。

1997 年近畿大学医学部第 2 内科学助教授、1999 年同学部消化器内科学教授、現在に至る。

（現在の併任）近畿大学医学部奈良病院消化器内科教授

近畿大学医学部堺病院消化器内科教授

専門：消化器内科学

シンポジウム：肺がんについて

大阪府立成人病センター外科系診療局長 児 玉 憲

毎年、世界中で 100 万人以上の方が肺がんで亡くなられています。肺がんは今なお難治がんのひとつに数えられています。それゆえ、禁煙や環境汚染の防止による 1 次予防と早期発見・早期治療が重要です。最近の 10 年間の画像診断の進歩はめざましく、それ以前には決して胸部単純レントゲン検査で見つかることのなかった早期肺がんや微小肺がんが、CT 検査で多数見つかるようになりました（図 1）。転移する前にがんを発見すれば手術で高率に治すことができます。また、縮小手術や放射線治療で治すことも可能になります。一方、手術手技も進歩し、胸腔鏡手術も普及しました。すなわち、早く見つけて胸腔鏡のような小さな傷で、縮小手術で病巣を取り除くのが、「上手に治す」ことになるのですが（図 2）、肺がんの場合、小さくても油断の出来ないケースもあり、手術方法の選択は慎重に行わねばなりません。外見上の傷の大きさのみにこだわるのは危険です。

今回、早期肺がんに対する最新の治療戦略につき提示したいと思います。

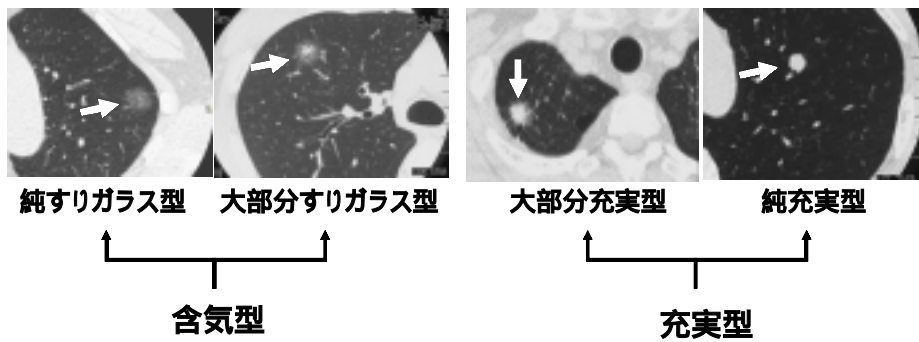


図 1. 胸部単純レントゲン写真に写らない代表的な肺癌の高分解能CT写真

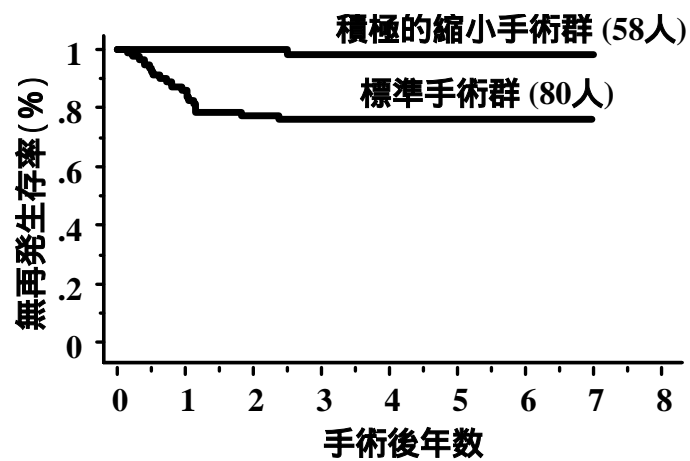


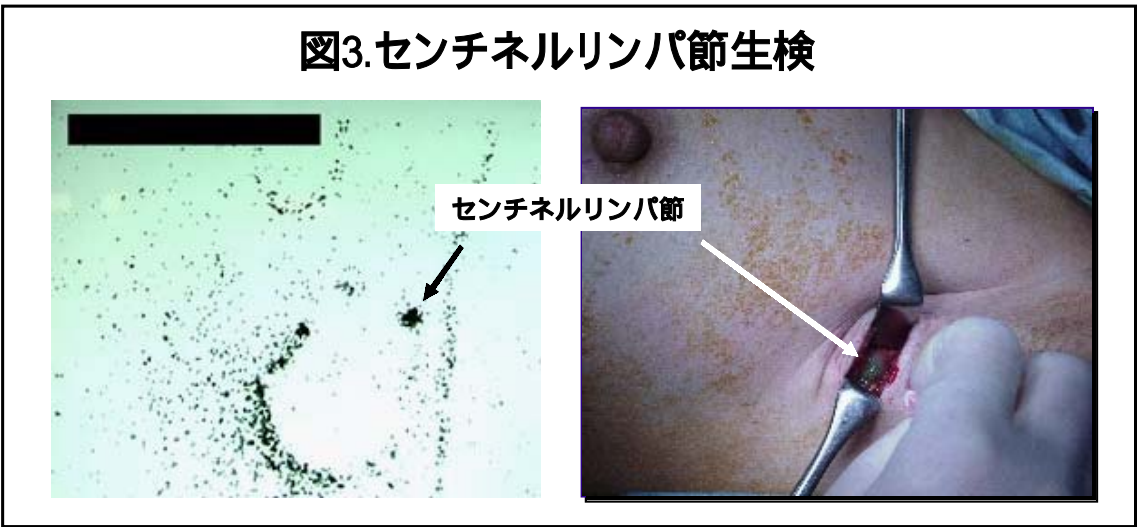
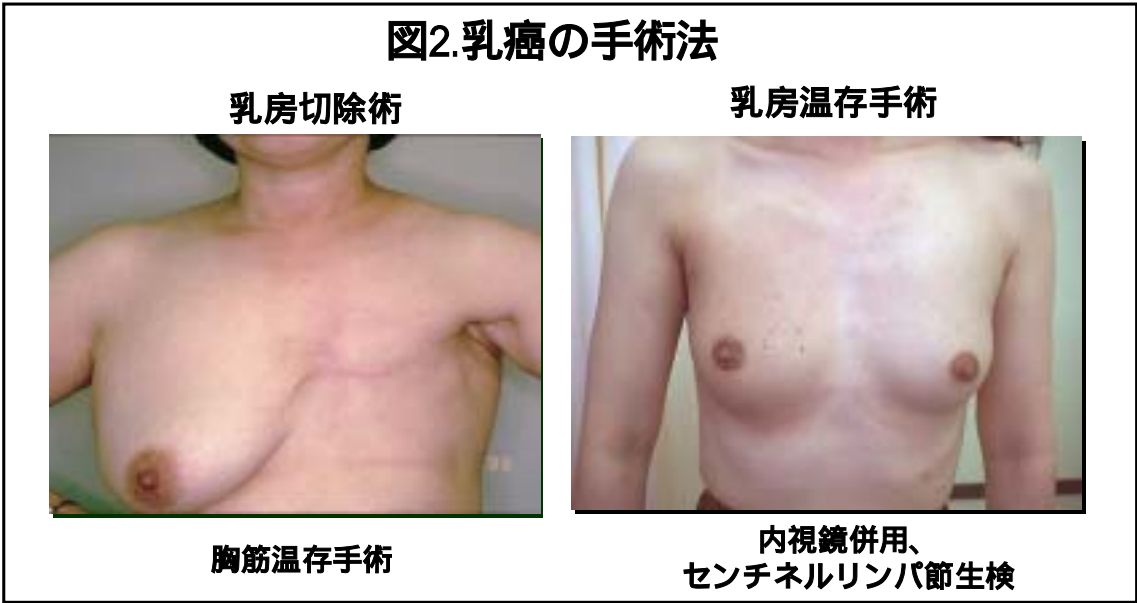
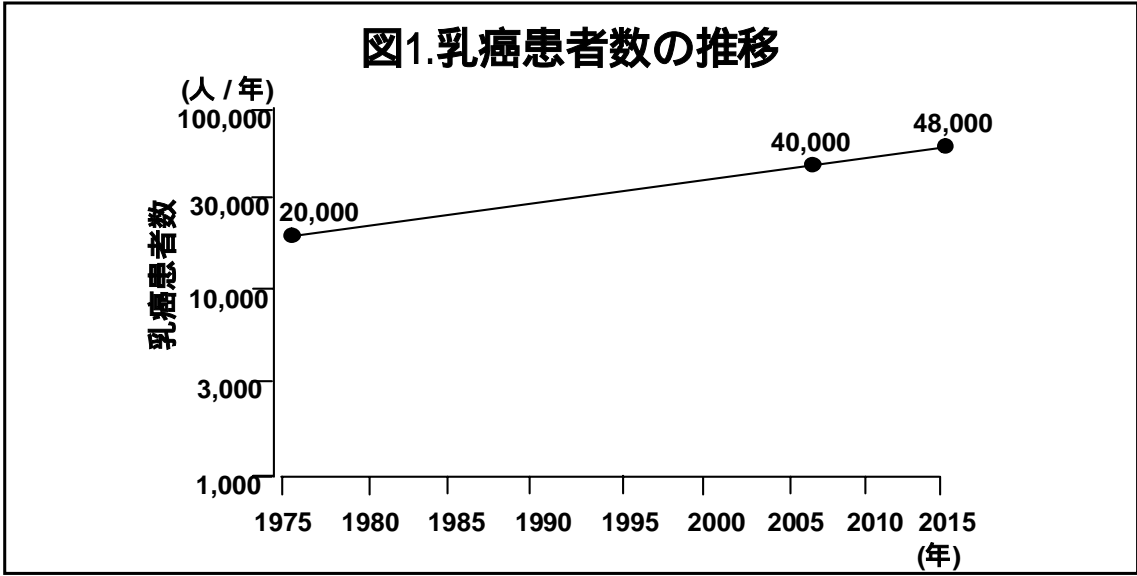
図 2. 最大腫瘍径20mm以下の微小肺癌に対する術式別に見た術後生存率曲線。症例を選べば縮小手術で根治可能な症例が存在することを示している。

大阪大学大学院医学系研究科外科系臨床医学専攻 外科学講座（乳腺内分泌外科学分野）教授 野口 眞三郎

乳癌は、嘗て日本では罹患率の低い疾患であった。しかし近年、生活様式の欧米化に伴い日本人の乳癌罹患率は急増し、現在、年間約4万人の女性が乳癌に罹患している。これは、1975年の約2倍という数字である。また、がんの統計(がん研究振興財団)によると、乳癌罹患率は今後も増加し2015年には年間に約4.8万の女性が乳癌に罹患すると予測されている(図1)。従って、乳癌の診断と治療および予防は今後その重要性を更に増して行くものと思われる。

現在一般に行われている乳癌手術法としては、大きくわけて乳房切除手術と乳房温存手術がある(図2)。乳房温存手術の適応基準は各施設によって多少の違いはあるが、概ね腫瘍径が3cm以下でマンモグラフィ・上広範な微小石灰化が無く、超音波検査・MRI・CTなどで広範な乳管内進展が見られない症例を乳房温存手術の適応としている。乳房温存手術の際には、原則的に温存乳房に対する放射線療法を行うが、病理学的に完全に切除されたと判断される症例に対しては放射線療法を施行しない施設も見られる。また、腫瘍径が大きい等、乳房温存手術の適応ではないが患者さんが強く乳房温存を希望する場合には、まず化学療法(術前化学療法)を実施して腫瘍を縮小させた後に乳房温存手術を施行したり、あるいは、乳房切除後に乳房再建を行うこともある。腫瘍径、病期、乳房の大きさ、年齢、ライフスタイルなどを考慮して、各症例ごとに十分なインフォ・ムドコンセントのもとに術式を決めることが重要である。

乳房切除術および乳房温存手術の何れの場合においても、つい最近までは腋窩のリンパ郭清を実施することが原則であった。しかし、臨床上(触診、画像診断等)リンパ節転移が無いと判断された症例では、実際に転移のある率は20-30%である(逆に言うと70-80%の症例ではリンパ節転移がない)ことから、術後の知覚異常や上腕浮腫を防ぐ目的で、最近では臨床的にリンパ節転移なしと判断される症例に対してはセンチネルリンパ節(見張りリンパ節)生検を施行し、センチネルリンパ節に病理学的に転移の無い場合は腋窩郭清を省略するという方法が一般に普及しつつある(図3)。本講演では、これら最新の乳癌の手術療法を中心に、出来る限り具体例を提示しながら分かりやすく解説する予定である。



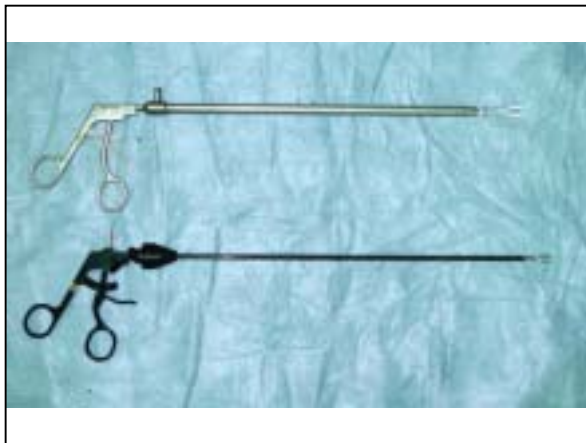
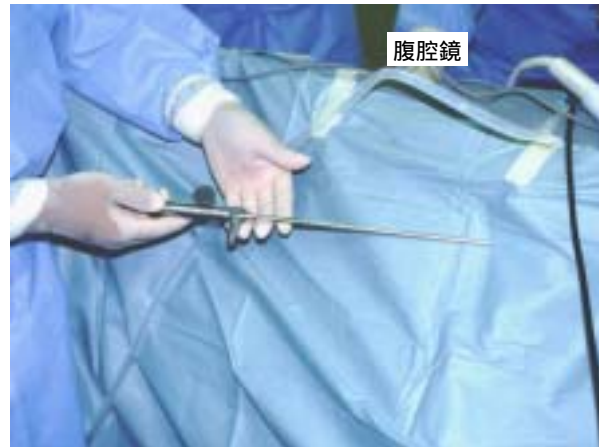
シンポジウム：こんなに違う消化管のがん治療 - 早期がんと進行がん -

大阪大学大学院医学系研究科外科学講座消化器外科学助教授
関本 貢嗣

消化管がん（胃がんや大腸がん）は日本人に最も頻度の高いがんです。治療技術の進歩により、多くの消化管がんは早期発見し確実に切除すれば治る病気となりました。また、従来は大きく開腹していた手術も腹腔鏡下手術などの開発により非常に小さな傷で行えるようになり、痛みや手術後後遺症も少なくなってきました。今回のシンポジウムでは、腹腔鏡下手術をはじめとする最新の消化器がん治療について、こういった種類があるか、こういったがんのどの程度の進行度なら治療可能かを解説します。いかに早期発見が大切かを理解していただければと思います。

今日のテーマ

1. 日本人のがん
2. がんの様々な治療法
 1. 早期がんの治療法
 2. 進行がんの治療法
3. 腹腔鏡下手術とは
 - 利点
 - 問題点
 - どんながんが腹腔鏡下手術可能か



開腹手術と腹腔鏡下手術

開腹術

- お腹を大きくあける
- 手で行う 触る
- 肉眼で見る
- 古い 1000年以上?

腹腔鏡下手術

- 小さな傷 傷は4-5カ所
- 器具で行う 触らない
- カメラで見る(モニター)
- 新しい 1990年頃~

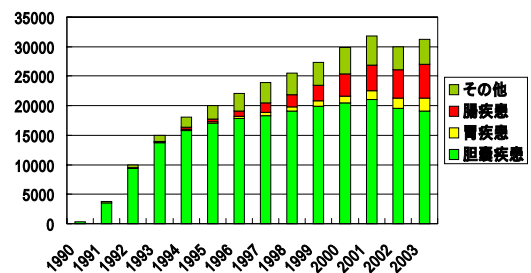


腹腔鏡下手術のメリット

- 低侵襲性**
- 傷が小さい
- 痛みが少ない
- 美的優位**
- 早期回復**
- 術後腸閉塞の減少
- 社会復帰が早い
- 精密な手術が可能**
- 出血が少ない



腹部外科領域における腹腔鏡下手術



日本内視鏡外科学会
第7回内視鏡外科手術に関するアンケート調査より

シンポジウム：肝細胞がんの早期発見

近畿大学医学部消化器内科学教授
工藤 正俊

肝細胞癌は日本において現在、急速に増加している悪性腫瘍の一つです。厚生省保健医療局の調査では、1996年の日本人の死因の中で肝臓癌の死因は32,175人と報告され、胃癌、肺癌に次いで3番目に多い悪性腫瘍となっています。さらに現在においては、肺癌同様、年とともに増加の傾向をたどっている悪性腫瘍あり、現時点の日本における大きな問題となっております。本講演では肝細胞癌の早期発見のために患者さんにとってどういうことが重要であるかをかいつまんで概説したいと思います。

・肝細胞がんの早期発見

- 1) 肝細胞癌のハイリスク・グループ
- 2) 肝細胞癌早期発見の意義
- 3) 早期発見の方法
- 4) C型肝炎の患者さんの肝癌早期発見
- 5) B型肝炎の患者さんの肝癌早期発見
- 6) 慢性肝炎・肝硬変の患者さんの注意点
- 7) 肝細胞癌は予防が可能である
- 8) 早期発見のまとめ

・肝細胞癌の治療

- 1) 治療方針の決定
 - a. がんの進行度と肝機能に応じて治療法を選択する
- 2) 肝機能の予備能が十分ならがんのあるブロック（亜区域）を切除する
 - a. 肝切除術
 - b. 肝移植術
- 3) 非手術療法
 - a. 肝動脈塞栓術（TAE）
 - b. 高周波（ラジオ波）などにより、がん細胞を壊死させる
 - c. その他の治療法
「化学療法」「リザーバー動注化学療法」「抗癌剤動脈内持続注入療法」「放射線療法」
- 4) 治療後の注意
 - a. がんの根治後も、再発予防、再発の早期発見に努める
 - b. 再発を積極的に抑える

シンポジウム

事務局からのご案内とお願い

- 1 ご質問のある方は配布しております「質問票」にご記入のうえ、受付に設置しております「質問箱」にご投函ください。 **(本日 13:30 締め切り)**
いただいたご質問は可能な限り総合討論の際にお答えします。
 - 2 シンポジウムに関するアンケートにご協力ください。
お帰りの際に出口に設置しておりますアンケート回収箱にご投函ください。
 - 3 当会場は禁煙・飲食禁止です。ご協力よろしく申し上げます。
-

がん予防キャンペーン大阪2006シンポジウム

【主催団体 12団体 順不同】

大阪府
大阪市
(社)大阪府医師会
(財)大阪対ガン協会
(財)結核予防会大阪府支部
(財)大阪公衆衛生協会
(社)大阪エイフボランタリーネットワーク
大阪府地域婦人団体協議会
大阪市地域女性団体協議会
(社)大阪府公衆衛生協力会
(財)大阪成人病予防協会
(財)大阪がん予防検診センター* (*事務局)

【後援団体 48団体 順不同】

大阪府市長会
大阪府町村長会
大阪府教育委員会
大阪市教育委員会
大阪労働局
近畿厚生局
大阪市青年団体協議会
(社)大阪府歯科医師会
(社)大阪府薬剤師会
(社)大阪府看護協会
(社)大阪府助産師会
(社)大阪府栄養士会
大阪府学校保健会
大阪市学校保健会
日本ボーイスカウト大阪連盟
(社)ガールスカウト日本連盟大阪府支部
大阪私立中学校高等学校連合会
大阪私立中学校高等学校保護者会連合会
たばここれす
日本禁煙協会西日本本部
(財)阪喉会
(社)大阪ハートクラブ
(財)大阪21世紀協会
(社)大阪青年会議所
大阪商工会議所
大阪弁護士会
朝日新聞社
朝日放送株式会社
NHK大阪放送局
(財)大阪府青少年活動財団
(財)大阪市青少年活動協会
(財)大阪府こども会育成連合会
大阪市子供会育成連合協議会
大阪府PTA協議会
大阪府立高等学校PTA協議会
大阪市PTA協議会
大阪府青少年指導員連絡協議会
大阪市青少年指導員連絡協議会
(財)大阪キリスト教会青年会(YMCA)
(財)大阪キリスト教女子青年会(大阪YWCA)
WHO「喫煙と健康」指定研究協力センター
たばこと健康問題NGO協議会
中央労働災害防止協会
健康保険組合連合会大阪連合会
(財)日本予防医学協会西日本統括センター
(財)近畿健康管理センター大阪事業部
(社)大阪府病院協会
(独)労働者健康福祉機構 大阪産業保健推進センター

〒536-8588 大阪市城東区森之宮 1-6-107 (財)大阪がん予防検診センター内
「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会事務局

TEL:06-6969-6711 (代表) TEL:06-6969-0676 (直通) FAX:06-6969-0676

ホームページアドレス <http://www.gan-osaka.or.jp>

キャンペーン事業の詳細は、ホームページにも掲載します。